

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年2月14日

【四半期会計期間】 第99期第3四半期(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

【会社名】 日鉄鉱業株式会社

【英訳名】 Nittetsu Mining Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 松本六郎

【本店の所在の場所】 東京都千代田区丸の内二丁目3番2号(郵船ビル)

【電話番号】 03(3284)0516(代表)

【事務連絡者氏名】 総務課長 野村 勉
財務課長 安田 誠司

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内二丁目3番2号(郵船ビル)

【電話番号】 総務課 03(3284)0516
財務課 03(3216)5255

【事務連絡者氏名】 総務課長 野村 勉
財務課長 安田 誠司

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第98期 第3四半期 連結累計期間		第99期 第3四半期 連結累計期間		第98期	
		自 至	平成23年4月1日 平成23年12月31日	自 至	平成24年4月1日 平成24年12月31日	自 至	平成23年4月1日 平成24年3月31日
売上高	(百万円)		76,005		76,538		101,505
経常利益	(百万円)		4,746		6,359		6,744
四半期(当期)純利益	(百万円)		2,918		3,664		3,024
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)		217		4,078		3,000
純資産額	(百万円)		68,041		73,322		70,823
総資産額	(百万円)		130,944		133,365		132,470
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)		35.05		44.01		36.32
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)						
自己資本比率	(%)		51.3		54.1		52.4

回次		第98期 第3四半期 連結会計期間		第99期 第3四半期 連結会計期間	
		自 至	平成23年10月1日 平成23年12月31日	自 至	平成24年10月1日 平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)		14.69		17.58

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災の復興需要等を背景として、一部に持ち直しの動きがみられたものの、欧州債務問題に起因する世界的な金融不安の長期化や新興国経済の減速など、景気は厳しい状況のまま推移いたしました。

このような経済情勢のもと、当社グループにおきましては、主力生産品である石灰石の販売が堅調でありましたものの、銅価が前年同四半期に比べ低水準で推移しましたことから、売上高は765億3千8百万円（前年同四半期比0.7%増）と前年同四半期なみにとどまりました。

損益につきましては、鉱石部門の増益により経常利益は63億5千9百万円（前年同四半期比34.0%増）、四半期純利益は36億6千4百万円（前年同四半期比25.5%増）とそれぞれ前年同四半期に比べ向上いたしました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

[資源事業]

(鉱石部門)

鉱石部門につきましては、石灰石の販売数量が増加しましたことから、売上高は369億3千5百万円と前年同四半期に比べ17億6百万円（4.8%）増加いたしました。

営業利益は、国内鉱山における生産コストの低下に加え、連結子会社の業績が順調でありました結果、45億9千7百万円と前年同四半期に比べ15億1百万円（48.5%）増加いたしました。

(金属部門)

金属部門につきましては、電気銅の販売数量が増加しましたものの、銅価が下落しましたことから、売上高は312億2千6百万円と前年同四半期に比べ15億8千4百万円（4.8%）減少いたしました。

営業利益は、銅鉱石の買鉱条件の改善等がありましたものの、アタカマ銅鉱山の減益により、25億3千万円と前年同四半期に比べ2千4百万円（1.0%）減少いたしました。

[機械・環境事業]

機械・環境事業につきましては、環境部門の主力商品である水処理剤の販売が堅調でありましたことに加え、機械関連子会社の販売が総じて順調でありましたことから、売上高は64億3千8百万円と前年同四半期に比べ4億7千9百万円(8.0%)増加し、営業利益は6億6千2百万円と前年同四半期に比べ1億8千5百万円(38.8%)増加いたしました。

[不動産事業]

不動産事業につきましては、賃貸物件の減少等により、売上高は19億3千8百万円と前年同四半期に比べ6千8百万円(3.4%)減少し、営業利益は10億3千万円と前年同四半期に比べ4千万円(3.8%)減少いたしました。

(2) 財政状態の分析

資産の部

当第3四半期連結会計期間末における資産の部の合計は、前連結会計年度末に比べ8億9千5百万円(0.7%)増加し、1,333億6千5百万円となりました。

流動資産につきましては、電気銅等のたな卸資産が減少しましたものの、現金及び預金の増加等により、前連結会計年度末に比べ14億2千4百万円(2.5%)増加し、590億8千1百万円となりました。

固定資産につきましては、減価償却による有形固定資産の減少や償還による投資有価証券の減少等により、前連結会計年度末に比べ5億2千8百万円(0.7%)減少し、742億8千4百万円となりました。

負債の部

当第3四半期連結会計期間末における負債の部の合計は、前連結会計年度末に比べ16億3百万円(2.6%)減少し、600億4千3百万円となりました。

流動負債につきましては、短期借入金及び賞与引当金が減少しましたものの、借入地金の増加等により、前連結会計年度末に比べ5億3千1百万円(1.7%)増加し、321億4千9百万円となりました。

固定負債につきましては、長期借入金の減少等により、前連結会計年度末に比べ21億3千4百万円(7.1%)減少し、278億9千3百万円となりました。

純資産の部

当第3四半期連結会計期間末における純資産の部の合計は、利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末に比べ24億9千9百万円(3.5%)増加し、733億2千2百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は4億3千万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	83,523,195	83,523,195	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は1,000株であり ます。
計	83,523,195	83,523,195		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年12月31日		83,523,195		4,176		6,149

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成24年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 257,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 82,813,000	82,813	同上
単元未満株式	普通株式 453,195		同上
発行済株式総数	83,523,195		
総株主の議決権		82,813	

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が599株含まれております。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日鉄鉱業株式会社	東京都千代田区丸の内 2丁目3番2号	257,000		257,000	0.31
計		257,000		257,000	0.31

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
常務取締役 (経理部、資源営業部、 金属営業部、BCM推進室管掌)	常務取締役 (経理部、資源営業部、 金属営業部管掌)	佐藤 公生	平成24年7月1日

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,419	17,716
受取手形及び売掛金	2 22,266	2 22,851
有価証券	30	30
商品及び製品	4,685	6,299
仕掛品	8,393	4,468
原材料及び貯蔵品	1,220	1,333
その他	6,667	6,399
貸倒引当金	26	19
流動資産合計	57,657	59,081
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	20,757	20,363
その他(純額)	22,476	22,606
有形固定資産合計	43,234	42,970
無形固定資産		
投資その他の資産	2,318	2,209
投資有価証券	23,594	23,468
その他	6,111	6,073
貸倒引当金	446	436
投資その他の資産合計	29,259	29,104
固定資産合計	74,813	74,284
資産合計	132,470	133,365
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 7,601	2 7,769
短期借入金	10,814	10,324
未払法人税等	1,345	1,096
引当金	822	247
資産除去債務	215	170
その他	10,818	12,541
流動負債合計	31,618	32,149
固定負債		
長期借入金	10,834	9,030
引当金	1,486	1,541
資産除去債務	2,904	2,970
その他	14,804	14,351
固定負債合計	30,028	27,893
負債合計	61,646	60,043

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,176	4,176
資本剰余金	6,149	6,149
利益剰余金	53,878	56,960
自己株式	126	128
株主資本合計	64,078	67,158
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,337	7,191
繰延ヘッジ損益	85	216
為替換算調整勘定	1,917	1,926
その他の包括利益累計額合計	5,334	5,049
少数株主持分	1,410	1,115
純資産合計	70,823	73,322
負債純資産合計	132,470	133,365

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	76,005	76,538
売上原価	58,747	56,588
売上総利益	17,257	19,949
販売費及び一般管理費	12,280	13,083
営業利益	4,977	6,866
営業外収益		
受取利息	66	60
受取配当金	538	365
その他	174	161
営業外収益合計	779	587
営業外費用		
支払利息	379	347
有価証券売却損	1	-
持分法による投資損失	28	142
為替差損	59	109
その他	541	494
営業外費用合計	1,010	1,094
経常利益	4,746	6,359
特別利益		
固定資産売却益	60	72
その他	12	1
特別利益合計	72	74
特別損失		
固定資産除売却損	74	108
減損損失	-	0
訴訟関連損失	34	56
その他	35	38
特別損失合計	145	204
税金等調整前四半期純利益	4,674	6,229
法人税、住民税及び事業税	1,643	2,131
法人税等調整額	516	266
法人税等合計	1,127	1,865
少数株主損益調整前四半期純利益	3,546	4,364
少数株主利益	628	700
四半期純利益	2,918	3,664

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,546	4,364
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,208	146
繰延ヘッジ損益	237	128
為替換算調整勘定	364	9
持分法適用会社に対する持分相当額	5	1
その他の包括利益合計	3,329	286
四半期包括利益	217	4,078
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	347	3,378
少数株主に係る四半期包括利益	565	699

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	
(会計上の見積りの変更)	
<p>連結子会社であるアタカマ・コーザン鉱山特約会社が保有する有形固定資産及び無形固定資産は、採掘可能年数に基づいて減価償却を行っておりますが、探鉱活動の結果、既採掘地域の周辺に賦存する鉱量が判明し、新たに可採鉱量に算入したことから、主要な設備の耐用年数を延長し、第1四半期連結会計期間より将来にわたり変更しております。</p> <p>これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の減価償却費が247百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ同額増加しております。</p>	
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)	
<p>当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。</p> <p>これによる当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。</p>	

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成24年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)	
保証総額 (連結会社負担額)		保証総額 (連結会社負担額)	
いわき共同タンカル㈱	177 (33)百万円	いわき共同タンカル㈱	165 (31)百万円
函館生コンクリート協同組合	29 (2)	函館生コンクリート協同組合	22 (1)
計	207 (36)	計	188 (33)

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	488百万円	462百万円
支払手形	70	48

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
減価償却費	4,084百万円	3,523百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	291	3.5	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金
平成23年11月4日 取締役会	普通株式	291	3.5	平成23年9月30日	平成23年11月28日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	291	3.5	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金
平成24年11月5日 取締役会	普通株式	291	3.5	平成24年9月30日	平成24年11月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	鉱石 (百万円)	金属 (百万円)	機械・環境 (百万円)	不動産 (百万円)	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (百万円) (注2)
売上高							
外部顧客への売上高	35,228	32,810	5,958	2,007	76,005		76,005
セグメント間の内部 売上高又は振替高	285		693	26	1,005	1,005	
計	35,514	32,810	6,652	2,033	77,011	1,005	76,005
セグメント利益	3,096	2,554	477	1,071	7,199	2,222	4,977

(注)1 セグメント利益の調整額 2,222百万円には、内部取引の相殺消去額 58百万円、貸倒引当金の調整額 1百万円、未実現損益の消去額 1,136百万円、報告セグメントに配分していない全社費用 1,025百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費、試験研究費及び探鉱費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	鉱石 (百万円)	金属 (百万円)	機械・環境 (百万円)	不動産 (百万円)	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (百万円) (注2)
売上高							
外部顧客への売上高	36,935	31,226	6,438	1,938	76,538		76,538
セグメント間の内部 売上高又は振替高	243		744	26	1,014	1,014	
計	37,179	31,226	7,183	1,964	77,553	1,014	76,538
セグメント利益	4,597	2,530	662	1,030	8,820	1,953	6,866

(注)1 セグメント利益の調整額 1,953百万円には、内部取引の相殺消去額83百万円、貸倒引当金の調整額 1百万円、未実現損益の消去額 327百万円、報告セグメントに配分していない全社費用 1,709百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費、試験研究費及び探鉱費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

(1) 会計上の見積りの変更に記載のとおり、連結子会社であるアタカマ・コーザン鉱山特約会社は、探鉱活動の結果、既採掘地域の周辺に賦存する鉱量が判明し、新たに可採鉱量に算入したことから、有形固定資産及び無形固定資産の耐用年数を見直し、第1四半期連結会計期間より将来にわたり変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「金属部門」のセグメント利益が247百万円増加しております。

(2) 会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

当該変更による当第3四半期連結累計期間のセグメント利益に与える影響は軽微であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	35円5銭	44円1銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	2,918	3,664
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	2,918	3,664
普通株式の期中平均株式数(千株)	83,272	83,265

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第99期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)中間配当につきましては、平成24年11月5日開催の取締役会において、平成24年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議し、配当を行っております。

中間配当金の総額	291百万円
1株当たり中間配当金	3円50銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成24年11月26日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月12日

日鉄鉱業株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐藤 明 典

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 上 林 三子 雄

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 原 山 精 一

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日鉄鉱業株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日鉄鉱業株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。